した2014年 囲み記事)から 季節は佐須よりひと月遅飯舘村は広い。小宮の桜 の夢が実現しま 4日の両日マキバノハナゾ ノこと大久保金一 植樹会(左下 2022年5月3日と 「再生の会 花友だち 農園を訪

> を始めて70年余、 「しゅみの友」 0 歳で うくり 花友だ

と 金 一

さん

(写 真

してみよ

8年

塚直さん・麻子さ は松月を始めとす る見事な桜並木の る見事など並木の る見事などがあるとす 代表・飯

目を閉じて「マキバノハ桜が眩しい(写真4)。 仙の丘からは青空に映えるれ桜の並木道(写真3)。 水 ナゾノさくら祭り」を夢想

有した人び 6、8年前 とが再び集

う笑顔を。だが見よ。たが見よ。たが見よ。で主人・原島のでは、東京本郷の酔郷のでは、東京本郷の酔郷のでは、東京本郷の酔郷のでは、が、ちどり」で主人・原島のできる。 も原島さんに千人の笑顔 真5)。花仙人・金一さん 桜」と再会を果たした(写 たたえて満開の「ちどり を見たに相違ない。

(文責&撮影・若林一平)



桜の植樹に100名超

第 8 2

2 0 2 2 / 5 / 3 - 4

訪 問 飯 舘 村 記 其の 2

さんとドクター)

成した(写真5)。

旧コメ

により『地球の実』を完 で公開彫刻プロジェクト

リに展開する新しい創造

一間は次号を待たれよ。

(文責&撮影・若林一平)

が欠かせない クターの応援

重仁さんが旧コメリ建屋

春から夏へと行きつ戻りが長い分だけ冬から春へ飯舘の四季は忙しい。冬 つ慌ただしく駆けぬけて

花開く「飯舘の初夏」 お伝えする。

ルで和牛フラ 壮大なスケー にも負けない

桜(前号)と同時進行で4日の両日満開の小宮の 2022年5月3日と

父子は、

は、北海道の大牧場田猛史さん・豊さん

Ш

には白衣のド を持つ繁殖牛 最高の血統書 は牛舎から)。 目指す(写真1 牛」の復興を ンド「飯舘

さん(写真3)。小原さん移住し就農した小原健太ある。2020年5月に る『復興知継承に 溝口勝教授の進め 学生命科学研究科園は東大大学院農 キョウを本格出荷 その苗床)。 小原農 します」(写真4は 「3年目の今夏トルコ 若き花卉農家の誕生で

!けた教育研究プ

(写真2は猛史 この3月彫刻家・ 松田

口 イトでもある。 ジェクト』の実験 サ

ふくしま再生の会

5

2 第 8 3 6 2

飯 舘 村 訪 問 記 其の 3 2 0 2 2 / 5 / 3 - 4

ズ "

域おこし協力隊・フェ。シェフは地

地

ラー

0

ハズット

<u>4</u> ° 松尾洋

コー ニ輝さん

ヒー

を淹

れていた

1 Ļ

が刻た

か3月の公開彫刻プ刈家・松田重仁さんた「地球の実」は彫

おお

もう1

キッが

ŕ

ントレー 力

通

れ

レ者恵 オはま

オー

会場

多を訪問

?(写真



サ ĺ.

村

0

ホ 1

口 ジ

工

ク

 \vdash

で完

速

地

球

0

実

コメリ

跡ム

地セ にン

ジー 1 IJ 1 イエ シー ンス/アー

奈々さん・矢野淳さ(共同代表は松本 0



5 月 2 2 年 2 0 日

けて「図図倉庫秘密基地誕生、 シグMARBLiNG 密基地誕生、名付ーが集結する実験 . J) ンテクノ コ)」。事業仕図図倉庫(ズッ 口

射線観察の霧箱と測定車2台を、放会は会場内に移動広く頑丈、再生の <u>2</u> した作品(写真 頑丈、再生 倉庫空間は

展示

再生の会の高橋正二さんがの実」の製作に使われたの実」の製作に使われた宗夫さん宅北のケヤキ材の放射能測定を行い、6 であるが心材、心辺材と告。放射能濃度は暫定値月5日速報データを報 あるが心材、心辺材と 放射能濃度は暫定値

「地球の実」のケヤキ材の 放射能測定(速報)

2022/6/5 高橋 正二

学野宗夫さん伐採 ~2017/4/25

 Ω 絶品。 いお爺ちゃ 術作 をひく異次元 さんのワーク (さかお・こういち)帆作家・酒百宏 ショップ「 花プロジェ 記者は美 i ま 0 0 ク で

進

める大林組、

ほ か業

長泥で

環境事

けます(

(写真7)。 ピアノも弾

なで花空間づ 「写真5)。 木 写し取りみん 葉を色鉛筆で 会場では 木

さんが村の農作業をティスト・長谷川仁 者 (写真6)。 作品づくりを村民して未来につなが ル」が思わぬ ひょうたんボ アー 人気 なあ

1

指す。 東 践、 商 と協働 す。・ 5 野宗夫さん) 影・若林 平、ケヤキ

人ひとりの (写真8) 0 未来の

(MARBLING)

倉庫です がる場所、それが図図 地域環境づくりにつな アクションも、未来の

て測定継続予定 ト。今後、測定精度を上げられるレベル、とのコメンなく食器類への利用も考え 建材、 美術用材だけ

愛でる大久

おや!

保金

一さん

ト会場入場 色のイベン の手首に青

ンド、 さん若

第 8 4

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

栃木県立大田原高校飯舘村実地研修同行記 2 0 2 2 / 1 0 / 2 2 ~ 2 3

小原壮二 3

真ん、

勝東大大学院農学生命科指導を、高校先輩の溝口よりで、高校の場がよりでは、現地の研修サポートは 名、総勢29名の先生が参加。引率 生徒が参加。引率 の先生方は植木淳 校長、加藤信行教 藤原和人教諭、稲本 のみなさん。

トソーコ)』に到着。田開する『図図倉庫(ズッ午後4時コメリ跡地に展 を見学の後飯舘村入り。 震災・原子力災害伝承館 一 今回は朝から東日本大 | が担当。 | 正二さん、 尾陽一さん(ふくし トソーコ)』に到着。

0名に加え、 自然科学班1

高等学校の気

3の両

日 日 栃 2

0月22、 2022年

いのさらに向こ

佐野隆章さん

同代表・矢野淳さん社・マーブリング共 から「実験秘密基 地域プロデュース会 庫を運営する飯舘村 から開会・歓迎の挨 ま再生の会理事長) (写真1)、 図図倉

班と有志11 名、課題研究

名、

のプレゼン(写真地・図図倉庫誕生 2, 使った粒子線観察と 一さんによる霧箱を 図図倉庫誕生」 続いて高橋正 粒子線の動きに

家」へ。記者は自然科学設に隣接する「風と土の天文班は天体望遠鏡施 課題研究班に同行し

魅力知ってください」 11)。宗夫さん「農業の る人を応援したい」(写真

(写真12)。田尾さん

原爆作る人間になら

な

特別が消

シメは全員で未来

0

ル! (写真13)

へ、北部への実地研修の「今後は本校から他校大高教諭・加藤さん

0

展開を展望していま

ゆくもの、誰もやらない者たちへ「真実は変わり 事をやろう」(写真5)。 松田 響· 大輩高 大変東 大学東先 き) さん の「エ ネ 生 一(ひび ル

はたてするとはできます。 別定(写真6)、②佐野班の取り組み。①溝口班はの取り組み。①溝口班は の取り組み。①溝口班は は最大放射線量探索ゲー測定 (写真6)、②佐野班 は食材の放射能測定 (写真7)、③高橋班

口先輩から近未来の科学は恒例の「ドロえもんクは恒例の「ドロえもんクである。夜間研修の「・のではののではののではののでは、一段町台宿所(とれんて川俣町台宿所(とれん

「一本の稲穂に百の花の報告あり。金一さん と大久保金一さんの「 員集会。冒頭に花仙人こんの田圃で振り返りの全 とお米を風と土の家で きいき長寿県民賞」受賞 (写真8)、 午後2時、 |食は持参したカレ げて美味を堪能。 ④小原班は (写真9) 菅野宗夫さ が 炊 堆

若林一平 (文責・撮影



先輩・松田さん「がんばも伝え広めたい」。大高徒「多くの体験を家族に

咲き百粒のお米になりま

(写真10)。

参加生

第 8 5

福島県、 大久保金一さんの受賞発表 2022/10/20

回県民賞に 名と3団体 名と3団体 の応募・推 そのうち個 そのうち個 金一さん)。今開の桜を愛でる 第2 大保金一さ 人保金一さ を発表し た(写真1、2 第25回いきいき長寿県人福島社会福祉協議会は日、福島県・社会福祉法

ビューに、「・・幼い頃一さんは県のインタが名付けた花仙人こと金 、いつか家の周りに桜やアヤメなどを育て続、農地の片隅にスイセり、花好きだったたり、本好きだったたり、ボター

を一面の花で満たそうとるためにも、いっそ農地してきた土地を今後見守 うほどの打撃を受けたた 年3月の原発事故となっ あった農業に希望を見失 てしまいました。 がランティアに支えらい断しました。たくさん 親子3人でここまで 生業で

田をつぶせないとの思いし、親が苦労して開いた持っていました。しかを植えたいという夢を

し後夢を -そに皮ず、 のも肉

を進めてきました。これまで花園形成 ルとして、また、 がは村を訪れた人 の心の癒しにと、 の心の癒しにと、 協議会発行「受賞者の横顔~はつら社会福祉法人福島県社会福祉 と喜びを語る。 つとして輝いている人~」より)

(福島県・

宝」(写真2、201 株玉の語り「山は珠玉の語り「山は

(写真2、2016 て)。 でとうご 誤賞受賞 アーに カタクリツ の会 す。 ざい 若林一平 (文責&撮 をはの

1940 金一さん誕生

1950 小5~6、クリンソウ・ヤマユリとの出会い、ハナゾノづくり始まる

1954 中3、草花の群生地づくりに成功

1982 飯塚さん訪問、交流始まる

1994 花博に参加、知見拡大

2013 ふくしま再生の会との協働始まる

2016 桜の植樹と再生の会カタクリツアー